

北陸の人手不足 ～その正体と処方箋を探る

一般財団法人北陸経済研究所 調査研究部総括研究員 倉嶋英二

本調査は、コロナ禍からの経済回復に伴い再燃しつつある北陸の人手不足について、その状況や原因についての分析を通じ、その解決の方向を探ったものである。

《論文要旨》

1. 人手不足のフェーズ変化

アベノミクス以降の景気回復局面で高まった人手不足感は、その後のコロナ禍を経て「景況感が悪化する中でも人手不足が進行する」という局面へと至っており、現在の人手不足は「景気変動による循環要因」のみならず「構造的な要因」が加わっていることを示している。

2. 変化の内容

2010年以降の北陸における求職・求人の動き、および雇用者数の変化を全国の動きと対比しながら詳細にみていくと、以下の変化が起きていることがわかる。

- (1) 若年人口が減少するなかで、女性や高齢者の労働参加の高まりによる労働供給が人口減少に追いつかなくなり、雇用者数が総体として減少している
- (2) 人口構成の変化、専門分野など職業に対する志向の変化により、業種・職種によっては人材確保難が深刻化
- (3) 製品・サービスの開発、販売・マーケティング、生産といった、企業が付加価値を生み出す活動の中核を担うべき人材が特に不足

このような変化に対応するには、「社外から」「正社員を」補充する従来型の採用・雇用システムの転換が必要と言える。

3. 雇用・労働に関する北陸の特徴

労働市場における需給関係、労働参加の状況、労働時間、雇用形態、産業構造、給与水準、労働生産性を要素に、雇用・労働に関する北陸の特徴をみていくと、北陸は「より多くの労働力投入を通じてアウトプット(産出量)を増やしてきた」という度合いが他の地域と比べて強いことがわかった。従来はこの特徴が「北陸の強さ」の一つとして作用したが、現在は人的にも時間的にも労働投入量を増やすことによる生産力の維持・向上は困難となっている。

4. 北陸の人手不足に対する処方箋

これらの分析結果を踏まえ、本調査では北陸の人手不足に対する処方箋として以下の3点を指摘した。

- (1) 多様な就業の選択肢を提供し、人・時の投入量を維持
- (2) 設備投入によるパフォーマンス(労働生産性)の向上
- (3) 研究開発投資、能力開発投資を通じて付加価値を生み出す力を底上げ